

銘柄分析レポート：水道ビジネス

1 はじめに

昨年、市内のあちらこちらで道路が掘り返されていました。「一体、何だろう」と工事現場に立て掛けてある看板を確認すると、古くなった水道管の交換工事でした。

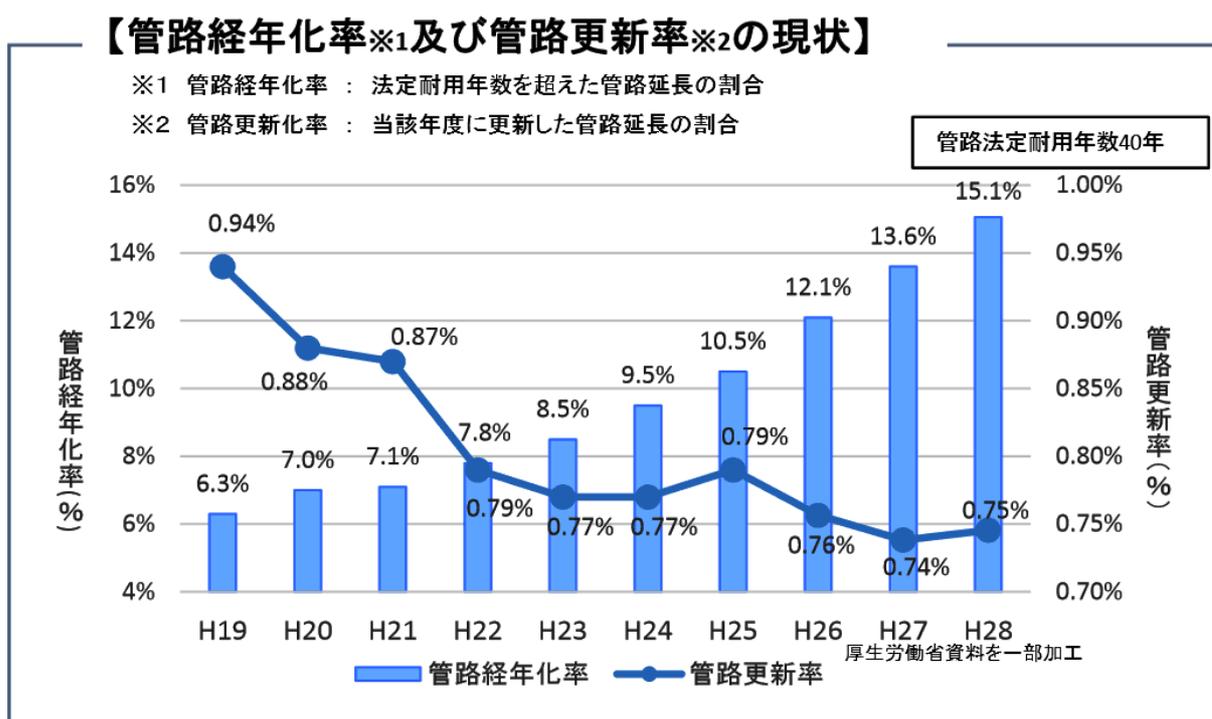
我が国の社会インフラは、高度成長期に整備されたものが大半です。2030年代には建設後50年以上を経過している施設が半数を超えると見込まれており、老朽化するインフラの維持管理が国家的な急務となっています。

上下水道も同様です。下図「管路経年化率及び管路更新率の現状」より次の結論が導き出されます。

管路更新化率の低下により、耐用年数を超えた管路が増加しており、今後、これまで整備された管路が大量に更新時期を迎える。

このような現状をふまえれば、水道ビジネスに関わっている企業は、更新需要による恩恵を受けられるのではないかと想定されます。

今回の銘柄分析レポートでは、水道ビジネスに関係している企業を取り上げました。



出典：総務省「水道事業の課題と取組について」